

# 株安 円高の流れがとまらない

## 株安・円高不安の連鎖

### 東証終値も1万5000円割れ

株安・円高の流れが止まらない。12日の東京株式市場は、世界経済の先行き不安から、日経平均株価が2014年10月21日以来、約1年4カ月ぶりに1万5000円台を割り込んだ。春闘の賃上げ交渉にも影響し

そうで、安倍政権の経済政策「アベノミクス」が目指す経済の好循環に「黄信号」がともっている。

▼3面「アベノミクス試練

日経平均は一時847円安まで下げ、終値は前営業日10日より760円78銭(4・84%)安い1万4952円61銭。3営業日続け

ての全面安で、下落幅は計2000円を超えた。

株安の引き金は、11日の海外市場で一時1ドル111

#### 年初からの株安は2000年のITバブル崩壊に迫る



0円台後半まで急伸した円相場だ。先行きに不安を抱える投資家が、比較的安全な資産とされる円を買う動きを急速に強めている。約2週間で11円近く円高が進む異例の展開で、株式市場では、業績に不利になる輸出関連株などが売られた。続く株安で株式などで運用する投資信託の1月の損失は4兆8千億円に上り、過去6番目の規模だった。

株安・円高が止まらないのは、原油安や中国経済の減速懸念に加え、このところ世界経済を牽引してきた米国経済に陰りが見え始めたことが大きい。

菅義偉官房長官は12日の記者会見で、「企業収益は過去最高で、日本経済の足腰はしっかりしている。市場心理は悲観的すぎると政府は考える」と述べた。

だが、金融市場の混乱は、安倍政権が企業に求められている賃上げや設備投資増にも逆風だ。この日は鉄鋼大手の労働組合が要求書を経営側に出し、今年の春闘交渉が本格的に始まったが、経営側からは賃上げに慎重な発言も出始めた。

一方、安倍晋三首相は12日午後、日本銀行の黒田東彦総裁と首相官邸で会談。国内外の経済情勢を話し合ったという。26、27日には、中国・上海でG20財務相・中央銀行総裁会議が予定されており、市場の不安を打ち消せるかが焦点になりそうだ。

(山下龍一)